

## 令和３年度 第１回帯広市総合教育会議

1. 令和３年 11 月 25 日 木曜日 15 時 ～ 16 時  
総合教育会議を帯広市役所 11 階 第 6 会議室に招集する。

### 2. 本日の出席者

|         |         |
|---------|---------|
| 帯 広 市 長 | 米 沢 則 寿 |
| 教 育 長   | 池 原 佳 一 |
| 教 育 委 員 | 田 中 厚 一 |
| 教 育 委 員 | 藤 澤 郁 美 |
| 教 育 委 員 | 佐々木 しゅり |
| 教 育 委 員 | 柳 川 久   |

### 3. 本日の議事日程

#### ( 1 ) 協議事項

大空学園義務教育学校に期待すること

### 4. その他

## 1. 開会

米沢市長)

- ・令和4年4月、帯広市初の義務教育学校として、大空学園義務教育学校が開校する。異学年との交流機会の増加や多くの先生との関わりなどの教育環境の変化は、多様な人々と協働する能力や物事に主体的に取り組む姿勢を育むための機会となり、将来的に求められる人材の育成につながると考える。
- ・本日の会議では、子どもたちの可能性の広がりにも目を向けながら、帯広市ならではの特色ある小中一貫教育の推進に向け、大空学園義務教育学校について意見交換を行う。委員の皆様には幅広く忌憚のない意見をいただきたい。

池原教育長)

- ・大空小学校と大空中学校は、地域の皆様とともに歩んできた。統合により、これまで以上に一体感のある教育活動が可能になる。小中一貫教育の推進に向け、大空学園義務教育学校が果たす役割は非常に重要と考えている。
- ・昨年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、行事や部活動、大会などの延期、中止が相次ぎ、子どもたちは学校生活において様々な点で制約を受けている。教育委員会では感染症対策の徹底を図りながら、充実した教育活動が進められるよう、引き続き指導、支援に取り組む。
- ・本日は、市長を交えて、各委員の皆様には、様々な立場から活発な意見交換をお願いしたい。

## 2. 協議事項

○大空学園義務教育学校に期待すること

事務局)

(資料の説明)

米沢市長)

- ・委員の皆様からは「大空学園義務教育学校に期待すること」について、ご意見を伺いたい。

佐々木委員)

- ・先月、大空中学校(現在、大空学園義務教育学校開校に向けて整備中)を見学した。アリーナ、音楽室が2つずつあり、小学校にはない多様な楽器も見受けられた。小・中学校の先生が一堂に会する職員室のほか、図書室などもとても広く、改めて9学年一緒に学ぶ施設であることを実感した。
- ・小・中学生が、施設や教材、器具などを共用できるメリットは大変大きく、施設一体型の最大の強みと感じる。小学生でも技術室等の様々な機械に触れられるのも強みで、活動の幅や可能性が広がる。図書室には、小学生向けと中学生向けの本が並ぶので、小学生でも興味があれば多少難しい本や資料を手にとることが可能となる。中学生は懐かしがって絵本を手にとることも可能で、子どもたちの可能性や視野が広がると思う。図書ブースとパソコンルーム、調べものの用のブースが隣接しており、子どもたちが使いやすそうだった。
- ・新校舎は階層ごとにイメージカラーがあり、3階は空の色で青、2階が緑、1階が地の色で茶と、事前のワークショップで子どもたちの意見を取り入れ、各色を設定したと聞いた。教育の計画段階で、子どもたちも関わり、目に見える形で校舎が出来上がっていく過程は、日常では体験し難く、貴重な経験であり、当事者意識も生まれると思う。こうした経験を通じ、学校をより良くしようという思いが強くなれば、とても良い流れだと思う。今後も、児童生徒が主体的に学校づくりに関われる環境を整えていくことを期待している。

米沢 市長)

- ・図書室については同感である。急に大人の本ではなく、少し背伸びして届く本がそこにあることに良さがある。背伸びと懐かしさの行き来や、図書室の広さ、本に囲まれている時に感じる安心感は、一定の規模があるとまた違う。
- ・自分たちの意見が施設・設備に反映されると、大事に使い愛着が生まれる。主体性を育む上で大切なプロセスだと思う。未来を予測することが困難な時代を迎え、大切なのは自分で考える力、自分でやってみる、積極性、主体性だと思う。そういうことを期待させてくれる学校になると感じた。

柳川 委員)

- ・9年かけて育て方を考えられることに大きな可能性がある。小学校から中学校への移行がスムーズになり、中1ギャップの解消はもとより、それ以上のメリットも見込める。6歳と15歳が同じ校舎内で互いに姿を見ることができる。例えば、図書館の椅子は大小様々なものが揃っていて、多様な年代が共同で1つの学校で学んでいることを体験できる。それだけでも意義深い。博士課程まで進学した大学生の9年と比べ小中学生の9年は1年ごとの成長が見えやすい。

9年の積み重ねにより様々なものを生み出す可能性の広がりを感じる。先生方は苦勞されると思うが、こういう子に育ってほしいという思いで9年間見守ってほしい。

米沢 市長)

- ・義務教育学校の9年間という期間の長さには可能性を感じる。世の中に出て、幅広い年代の人と接触すると様々なギャップに気付き、機会の発見や別のチャレンジにつながり、イノベーションなどに結び付く。自分の幼少期は周囲の中学生や高校生を間近に見られたが、最近はそういう機会がない。9年間の学校生活では、小さな子や先輩たちとどのように接触するかを経験できる。人間的成長の土台となる9年を皆さんでどう作っていくのか。9年の前提でモノを見ると、6年・3年と区切って見るのとでは、自ずと異なってくる。そこに非常に期待している。

藤澤 委員)

- ・大空地区では、昭和42年に団地造成後、大空小学校、大空中学校の順に開校し、それぞれが地域の中心としての役割を果たしてきており、学校と地域の方々との繋がりや強さを感じる。運動会や体育祭では、町内会所有の音響設備を貸し出しているほか、中学校では、造成当時から大空団地に住む方を講師とした地域の歴史を学ぶ授業があるなど、地域への熱い思いが子どもたちにも伝わっていると感じる。大空学園義務教育学校における地域コミュニティの中心としての役割についても、児童生徒玄関前に交流スペースが設置されていて、大変期待しているところ。
- ・大空地区義務教育学校準備協議会には地域の町内会等の代表の方も含まれている。地域社会とのつながりや信頼できる大人との関わりを通して、子どもたちは心豊かにたくましく成長すると思う。地域の方々には、互助・共助の視点を持って、自ら生活する地域を作っていく意識で学校運営に関わっていただくことを期待する。
- ・先日の学校訪問の際、教科書を置くトイレの棚や階層ごとの色は生徒の発案だと聞いた。子どもの柔軟な発想は貴重で、今後も児童生徒の考えやアイデアを聞き、自主性、主体性を育むことを大切にしてほしい。子どもも大人も自ら主体となった様々な取り組みへの挑戦が、学校・地域の活性化につながる。開校してからも、大変なことがあると思うが、他の学校でも参考とするため、児童・生徒、教師、保護者、地域の方々のそれぞれの視点での情報提供をお願いしたい。

米沢 市長)

- ・子どもたちが親以外の大人と関わる機会が少なくなる中で、大空地区は特異な地域だと思う。先日、大空小の開校式でスライドショーを見て、大人やP T Aの関わりの濃さを感じた。大空団地の造成当初は、市職員や教員などの公務員が他の地域より多かったと思う。このため、他地域のP T Aとは違う特色を持っていたのではないか。学校を中心とした社会は、これからも明らかに必要とされる。大空中学校は令和元年にコミュニティ・スクールを導入したが、地域の歴史の中にコミュニティ・スクールの素地があったと思う。
- ・トイレの棚の話もそうだが、子どもは考え方が柔軟で、子どもたちから学ぶことはたくさんある。この学校では、子どもと大人が一緒に過ごせる場、交流できる場としての役割が期待されていると思う。

田中 委員)

- ・大空学園では、小学校5年生の段階から教科担任制を予定している。従来は中学校で初めて教科担任制が始まり、大変な思いをする子もいれば、成果が出る子もいる。私は、新たな環境下で学習スタイルを変えるよりも、慣れた環境下で早い段階で変える方がメリットも大きいと感じる。高校生の時、何十分かけてもわからない問題を先生がいとも簡単に解いてしまい、尊敬の念を抱いたことがあった。学校での学びの醍醐味だと思う。それを早い段階で体験させることはとても良い。教える専門家の凄さを小さい時から見てもらうことは大切である。ついていけない子の支援は当然必要になると思うが、プラスに働くと期待している。
- ・大空地区は世帯数、人口が微増していて、大空学園は子どもの数が500人前後の規模になることが想定されている。4,400人の住民のうち、10%前後が子どもたちで、保護者、親戚等が含まれると20%から30%程度は大空学園に関わる人たちとなる。地域の象徴として大空学園があると地域の一体感を生むと思う。校長先生もそれを意図して何らかの仕掛けを行っていくという話をされていた。最近では、少子高齢化で町内会存続の難しさなどのマイナスの要素が聞かれるが、4千人規模でその30%近くが大空学園に関わる人たちで、学校づくり、町づくりが一体化してできるのではないかと感じるし、子どもたちも地区に愛着が持てると思う。これがうまくいけば、帯広市の義務教育のひな型になる。学力、体力、地域力が一体となれば、単にハードの面だけではなく、帯広市内の他地域からも羨ましがられるはず。どのように地域を愛することができるか、そこにどのように関われるかということに尽きる。
- ・少子化で、子どもたちの多くは兄弟、姉妹がいない。しかもコロナ禍で対人関係に難を抱える子どもが増えている中で、6歳と15歳の子が仕切りのない学校

を互いに行き交うとどんな風景になるのか。核家族化が進む中で、大家族の良い面が復権できると思う。9 学年に関しては、学力や生活においても子どもたちにとってマイナス要素はなく、地域の活性化にも資すると思う。それが機能していけば、帯広の義務教育にとって1つの大きな指針になっていくと期待している。

米沢 市長)

- ・大人との関わりについては、特に丁度いいサイズのエリアでもあり、接点をたくさん持つことが大切だと改めて思う。
- ・規模については、大空地区は4千人の2割、3割が学校に関わるというコミュニティの規模で、一定程度のコミュニケーションが通った地域なので大変注目している。
- ・現地の視察では、学校から見た外の景色が豊かで空間が開けていて、街中にある学校とは違うと感じた。子どもたちにどんな景色を見せながら育てるかは重要なポイントだと思う。
- ・自分の小学生時代の成績を振り返ると、数年ごとの上がり下がりが大きかったが、これは先生によるところが大きく、好き嫌いや、先生との相性もあったと思う。中学生になって驚いたのは、教科担任がいろいろな技術や専門的なことを教えてくれたことである。1人の先生と合わなくても、いろいろな先生がいて、自分の得意なものが見つかった時に、その科目で救われたことが自分の経験としてあり、教科担任の良い面だと思う。中学以降でしか経験できなかったものが、自我が目覚めてくる小学校高学年辺りから、ミックスした形で学校の中にあることに非常に可能性を感じている。子どもの持っている能力をどう引き出すかという時に、いろいろな目を見て、いろいろな手で触ってもらうことが大切だと考えている。

池原教育長)

- ・体験授業として、大空小学校の6年生が5日間、大空中学校で終日授業を受けた。中学校の先生が授業を受け持ち、最終日に実施した6年生へのアンケートでは、「感じたことやわかったことは」という問いに対し、「授業がわかりやすく、楽しかった。特に理科と外国語の授業がおもしろかった。」「中学生と会うたびに挨拶していたら、挨拶が習慣になった。」「中学生は姿勢や返事もよい。」「中学生が親切。」「楽しくて小学校に戻りたくない。」などの好意的な感想が並んだ。こうした感想をうれしく思い、今後に向けて少し安心した。児童の評価が高かった背景には、体験授業を短時間ではなく1週間実施したことや、中学校の先生方の積極的な取り組みがある。初日に大空中の生徒が玄関で6年生を

出迎えた後、6年生のクラスに生徒会役員が出向き、挨拶の大切さや、わからないことはいつでも聞いてほしいと、リラックスさせてあげたことが、緊張のほぐれにつながったと聞いている。義務教育学校の開設に向けた、大空小学校、大空中学校の先生方、児童、生徒の皆さんの取り組みに感謝している。

- ・部活動は小中学校のつながりの中で、あり方を考える良い機会になる。教職員の働き方やモチベーションに影響し、子どもたちの教育の充実にも関わることから、学校と地域との連携が益々重要になる。教職員のモチベーションの向上については、今後も重点課題として取り組みたい。
- ・特別支援学級の児童生徒は増加傾向にある。保育所、幼稚園から小学校へ進学する際もそうであるが、小学校から中学校へのつながりも重要である。義務教育学校では、入学から切れ目なく多くの教職員の目で児童を見ていく。それが子どもたちへの支援の強みになるし、期待しているところでもある。これを組織として動かすためには、教職員にスキルも要求されるため、教育委員会としてもしっかりバックアップしていく必要がある。
- ・義務教育学校では、小中学校の垣根を越えて、教職員が一体となり子どもたち一人一人と関わることで、教育の質の充実、子どもの主体性、社会性を育むことにつながっていく。その基盤には、保護者を含めた地域の大人たちの理解、協力がある。今後、学校教育をはじめ、子どもたちの成長には、家庭や地域のつながり、大人の成長が不可欠で、そうした機会が増える環境づくりも大切である。帯広では初めての義務教育学校であり、今までにない変化が想定される。子どもたちのケアを常に意識し、学校や教育委員会が寄り添っていかなければならない。大空学園義務教育学校のめざす子ども像にもあるが、他者を尊重し、自ら行動する子、そして大人が育つような取り組みを進めてまいりたい。

米沢 市長)

- ・改めて教職員の皆さんの大変さを感じた。モチベーション、スキルの話はその通りだと思う。大人の成長という話もあったが、恐らく子どもと一緒に大人も成長していく。コミュニティという捉え方についても、よりはつきりする。新しい義務教育学校のあり方に大いに期待したい。
- ・各委員からの話は、総じて前向きな意見で期待感が非常に強かった。帯広市は昔から、エリア・ファミリー構想のもと、小中のスムーズな接続に取り組んできた。こうした基盤があったから、大空学園においてもそのノウハウが生きている。これまでの取り組みも未来志向であったが、そこに新しい義務教育学校という形が出てきたので、皆さんの期待値が高いと思う。他のエリアでも、形態は異なっても、ここでの知見を取り入れていけるよう考えなくてはいけない。全市的な取り組みの先駆けで、様々な課題も生じてくると思うが、とても良い

チャレンジであり、これからに期待したい。

- 本日の意見を踏まえ、教育委員会と市長部局がしっかり連携し、教育行政を進めていく。引き続き、委員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

以上で、令和3年度第1回帯広市総合教育会議を終了する。